

令和4年度

(2022年度)

社会福祉法人 東方会

事業報告

# 目次

はじめに	2
中長期計画の進捗状況	3
1 差別や虐待がない地域づくり	9
2 地域の核となる法人になる	12
3 容易に揺るがない経営基盤の構築	16
4 働きたい法人となる	20
各事業部門の報告	25
① 医王保育園	25
② 障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）	25
医務係	26
給食係	27
③ モーニングサポート（地域貢献事業：法人独自事業）	27
④ デイサポート瑠璃光苑（生活介護）	27
⑤ 瑠璃光苑 ホームヘルプ事業（居宅介護・同行援護・訪問介護・総合事業・移動支援）	28
⑥ Job センター ピシャット（就労継続支援B型）	29
⑦ Job センター シャキッと（生活介護）	29
⑧ Job センター キリッと（就労移行支援）	30
⑨ ジョブコーチ（職場定着支援）	30
⑩ 就労定着支援 R u R i（就労定着支援）	30
⑪ グループホーム K I T E N（共同生活援助）・ショートステイ K I T E N（短期入所）	31
⑫ グループホーム ビラ・ラズリ（共同生活援助）	31
⑬ グループホーム W A G E N（共同生活援助）・ショートステイ W A G E N（短期入所）	31
⑭ パーソナルサポートセンター 空（くう）（一般・特定・障害児・地域相談）	31
⑮ 瑠璃光苑 居宅介護支援	32
委員会活動報告	33
① リスク管理委員会	33
② 防災管理委員会	33
③ 苦情解決委員会	33
④ 虐待防止委員会	33
⑤ 安全運転管理委員会	34
⑥ 設備管理委員会	34
⑦ 広報委員会	34
⑧ クレド・マナー委員会	35
⑨ 地域貢献活動委員会	35
⑩ 衛生委員会	35

## はじめに

ほぼ3年間にわたる新型コロナウイルス感染症流行に関しては、国ごとに対応が異なり、マスクなしでの生活が始まっている国が増えてきている。特にゼロコロナ対策で厳しい対応を続けてきた中国では、通常期では考えられないような政権批判のデモが頻発し、ついに方向性を反転させ、爆発的な感染拡大へつながったが、徐々に終息に向かっていっているように見える。わが国では、アフターコロナを模索しながら、ゴールデンウィーク明けの令和5年5月8日に感染症法上の「新型インフルエンザ等感染症」である分類から季節性インフルエンザと同じ五類感染症へ変更することが発表された。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントの急な中止や、縮小を余儀なくされることもあったが、何とか利用者の生活の彩を取り戻そうと努力した一年であった。地域と共催の「有田川カワニバル」は夏のイベントから秋の「二里町ふれあいカワニバル」として再開することが出来た。リモートが多くなった職員研修会についても集合開催や、集合とリモート両方のハイブリット開催も増えてきて、休憩や交流会で直接会話を行うことで研修課題だけではない得るものがあると、あらためて集合開催の良さを感じた年でもあった。

そのような対応を続ける中、8月にはグループホーム ビラ・ラズリで、年末年始には障害者支援施設 瑠璃光苑ではクラスターが発生した。特に、瑠璃光苑では、12月15日から約一か月の間に、入所・短期入所利用者42名、応援配置を含めスタッフ25名の罹患者がでた。救急搬送も7件（新型コロナウイルス感染症以外も含む）あり、利用者感染症罹患後2名の尊い生命が失われたことは誠に痛恨の極みである。法人全体で対応を行うため、他部署の事業縮小もあり、1,400万円以上の収入減少と感染症対策経費（超過勤務手当などを含む）400万円以上のかかり増し支出が発生した。

一方、令和3年度の補正予算による補助金を得て、入所利用者の更なる地域移行先として重度障害者を対象とするグループホーム WAGEN を建設し、年度末に開所することが出来た。入所施設からグループホームへ移行するために、サービス等利用計画、支給申請、生活用品の準備など法人あがって準備を行った。スタッフの募集を1年間通して行い、大規模な人事異動と合わせてスムーズなサービス開始に備えた。

全国で保育所において虐待事案が多数発生し、保育士の逮捕という事案があった。障害者支援事業所、高齢者施設でも虐待報道が頻発している。児童虐待防止法、障害者虐待防止法、高齢者虐待防止法と、法人内サービスそれぞれに虐待を防止する法律に基づき、法人の虐待防止委員会が中心となり教育指導体制を整備している。虐待防止を基本とする人権教育は法人職員育成の柱ととらえ積極的な学習を促したが、職員による不適切発言の発生もあり、改めて人権学習に力を注いだ。

世界的新型コロナウイルス感染症パンデミックとウクライナへのロシア侵攻により物価が高騰した。サービスの質を落とさず、光熱水費の節約や資材調達の工夫を重ねコスト高の影響を最小限に食い止めていく努力を始めた。

## 中長期計画の進捗状況

### 1. 差別や虐待が起きない組織が確立

#### 人権擁護推進

令和4年度も引き続き、全職員対象の人権研修、苦情解決研修などについて、研修日程を複数日設定し、あるいは、事業所ごとに開催し、一度に集合する人員を減らす工夫をして行った。利用者からの訴えに耳を傾け、その都度安心カメラ等を活用し、現場の状況を把握した。そのなかで、言葉かけなどについて、虐待ともとられない発言を確認することもあり、対象職員への指導はもちろん、発生した事例をもとに、原因や防止策を検討する研修会を行い、我が事として反省し改善の決意を新たにした。

10月に実施された入所施設の実地指導において、そのような虐待を疑われる事案についてはその都度県への報告をすることと指導を受けた。今後は速やかに報告を行うよう改善を行った。

### 2. 地域での存在価値を高める

#### 地域への貢献・協力活動推進

地域への貢献活動として、伊万里市地域公益活動推進協議会の活動に引き続き参画した。なんでも福祉の相談所への相談受付を行い、なんでも福祉の見守り隊として迷子の保護や交通事故現場の交通整理の手伝いなどを行った。また、地元の国見中学校や二里小学校へ、企業紹介・福祉体験の講師として出向いた。今後も職員の自主性に任せる部分は大きい、「地域の中でさりげなく」ここになくってはならないと思ってもらえるように活動を推進していきたい。

本年度より地域貢献委員会が発足し、地域公益活動推進協議会の研修参加や法人の地域貢献事業の広報活動などを行った。

新型コロナウイルス感染症流行により2年間中止となっていた「有田川カワニバル」は二里町コミュニティセンターの秋祭りと同事業で、11月に「二里町ふれあいカワニバル」として開催され、東方会も共催し、地域の皆さんとの久しぶりの交流を楽しむことが出来た。

#### 新規事業の安定化・新規事業と既存サービスとの相乗効果による法人総合力の向上・第二期事業開始

令和3年度の国庫補正予算による補助金を受けて、重度障害者を対象とするグループホームの建設を行った。建設と並行して、利用者の地域移行の準備、新規入所者の対応、何より、新規事業開始のための人員の確保に集中する一年となった。

令和5年3月事業開始であるが、合わせて既存事業の組直しも行い、大規模な人事異動を行った。特に、新規グループホームには法人内各事業所から優秀な人材を集め、事業開始につまずかないように準備を整えた。

令和5年度は新規事業と他障害福祉サービスについて、サービスの向上とともに事業安定を図っていく。

### 各事業所の予算策定能力の確立

新型コロナウイルス感染症の法人内利用者等への感染等による事業縮小などがあり、決算としては当初予算より収入において大きく減少することとなった。特に入所系サービスの罹患は、隔離対応などへの人員派遣、後方支援などで法人全体での対応を余儀なくされ、ほぼすべての事業所に影響を与えた。

支出に関しては、年度途中で経年劣化による機器の取り換えの予算外支出が発生するケースがあった。このような突発的とはいえ、感染症発生時のリスクなども加味した予算策定の能力を確立するにはスタッフの経験と合わせて能力を向上する必要がある。予算策定スタッフを対象とした研修を計画する。

## 3. 入所施設の個室化

### 入所施設個室化の具体的立案

入所利用者については新規グループホームへの移行を進めることで、個室ニーズにこたえていくこととした。しかしながら、地域移行を希望しながらも支援量が大きく、グループホームでの対応が難しい利用者もあった。入所施設での生活に地域生活を体感できるようにすることはもちろんであるが、自分だけのプライベートスペースとしての個室を提供できていないことは長年の課題である。人的、物的資源を改めて見直し、具体的な個室化の計画を検討し始める年とする。

### 各事業所の自立的経営能力及び法人資源の一体的管理システムの確立

引き続き、中間評価会議、評価・計画会議、内部監査等を活用し、自事業所の運営課題を明確にすることで自立的経営能力を高めている。令和4年度は、計画管理様式について、事務作業負担軽減を目的とした様式変更を行った。

8月の新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり、9月に詳細な評価が難しくなったことが課題である。日々入力している介護支援ソフトや会計ソフトのデータを事業分析に活用することで、まとめ事務が省力化できるのではないかとと思われる。

令和4年度は保育園を除く福祉サービス事業部を、ライフサポート事業部と、ソーシャルサポートサービス事業部とし、それぞれ一体的な管理を行うこととした。それぞれの事業部において横断的な会議が開催され事業所どうしの情報共有がしやすい体制となった。令和5年度はさらに事業部を分けた効果が表れることを期待する。

ライフサポート事業部	障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援・生活介護・短期入所支援・日中一時支援）  デイサポート 瑠璃光苑（生活介護・モーニングサポート）  ホームヘルプ 瑠璃光苑（居宅介護・同行援護・重度訪問介護・移動支援、訪問介護・総合事業）
------------	--

ソーシャルサポート事業部	<p>障害者就労支援センター</p> <p>Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型）</p> <p>Job センター シャキッと（生活介護）</p> <p>Job センター キリッと（就労移行・ジョブコーチ）</p> <p>就労定着支援 RuRi（就労定着支援）</p> <p>グループホーム</p> <p>KITEN（共同生活援助、短期入所）</p> <p>WAGEN（共同生活援助、短期入所）</p> <p>ビラ・ラズリ（共同生活援助）</p> <p>総合相談センター</p> <p>パーソナルサポートセンター 空（くう）（一般相談、計画相談、児童相談）</p> <p>瑠璃光苑 居宅介護支援</p>
医王保育園	医王保育園（保育所）

また、委員会活動や新規事業プロジェクトなど、事業横断的の会議があるが、職員全員を対象とした法人研修とともに、医王保育園も含めた職員の交流の場となっている。

#### 4. 福利厚生 of 充実・多様な視点での人材確保

##### 幅広い人材の活用検討

幅広い人材活用については、正職員とパートタイム職員と言うだけではなく、子育て等の事情により、夜勤が出来ないスタッフや土日就労が難しいなどの個人の条件による働き方の提供を行い、家庭環境が理由で退職や短時間勤務への変更をせずに対応できるようになっている。

令和 4 年度開所のグループホームを整えるにあたって、ビラ・ラズリを除くグループホーム職員については 1 回あたりの勤務を 10 時間とし、週休 3 日の働き方とすることで、プライベートな日々の充実を支援することとした。

多様な働き方を提供することで幅広い人材の活躍につながると考える。

##### 資格取得支援の充実・キャリアパスと人事考課システムの一体化

福祉分野以外からの転職者も多いため、資格取得支援にも力を入れているが、令和 4 年度以降さらに強化することとしていた。同行援護研修では応用編の研修を含めて法人施設を活用し開催を支

援した。介護初任者研修、介護実務研修の開催も引き続き支援し、法人スタッフの資格取得の機会を提供した。

**【法人内で受講できる資格取得研修】**

介護福祉士実務者研修、介護職員初任者研修

同行援護支援者研修（基本研修、応用研修）

そのほか受験対策講座等

資格取得により、法人内で就労できる職種に幅が出て、キャリアパスがステップアップすることにつながっている。

**採用及び人材育成の課題に対する対応**

令和4年度は、新規事業開始のため年間を通して多くの求人を行い採用した。求人にとっては、例年通りの求人活動に加え、ケーブルテレビでの求人広告や近隣圏域のハローワークへ出向いての採用面接会参加などを行った。

広域に採用活動を行うこととくわえて、特にグループホームの世話人については近隣に住むスタッフにも職員紹介を依頼し、「二里町ふれあいカワニバル」での求人ポスター掲示などを行った。

「幅広い人材の活用検討」でも述べたが、週休三日の働き方は趣味や家庭生活に時間をかけたい人へのアピールにつながった。

## 理事会・評議員会の開催 理事会

開催年月日	議案等
第 1 回 令和 4 年 5 月 31 日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 新規グループホーム建設工事関連について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 3 年度 東方会 事業報告（案）について</li> <li>2. 令和 3 年度 東方会 決算報告（案）について</li> <li>3. 定款の一部改定について</li> <li>4. 東方会 経理規程の一部改定について</li> <li>5. 定時評議員会の開催（案）について</li> </ol>
第 2 回 令和 4 年 7 月 22 日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 新規グループホーム建設工事関連について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第 1 次補正予算（案）について</li> <li>2. 東方会 役職員の旅費等に関する規程の一部改定について</li> </ol>
第 3 回 令和 4 年 9 月 27 日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 新規グループホーム建設工事関連について</li> <li>3. グループホーム KITEN、ビラ・ラズリ利用者、職員の新型コロナウイルス罹患に伴う対応について</li> <li>4. 瑠璃光苑居宅介護支援事業 伊万里市長寿社会課による運営指導結果報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第 2 次補正予算（案）について</li> <li>2. 東方会 出産・育児等に関する規程の全面改定について</li> <li>3. 東方会 介護休業規程の全面改定について</li> <li>4. 東方会 瑠璃光苑利用者預り金管理規程の一部改定について</li> <li>5. 瑠璃光苑 居宅介護支援事業所運営規程の一部改定について</li> </ol>
第 4 回 令和 4 年 12 月 13 日	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理事長 職務執行状況報告</li> <li>2. 新規グループホーム建設工事関連について</li> <li>3. 令和 4 年度児童福祉行政指導監査、指定障害福祉サービス事業所等 実地指導、業務管理体制確認検査及び一般監査の結果報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第 3 次補正予算（案）について</li> </ol>

	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 東方会 就業規則の一部改定について</li> <li>3. 東方会 給与規程の一部改定について</li> <li>4. 東方会 経理規程の一部改定について</li> <li>5. グループホーム WAGEN、ショートステイ WAGEN 開設に伴う運営規程（案）について</li> <li>6. グループホーム KITEN、ショートステイ KITEN、グループホーム ビラ・ラズリの運営規程改定について</li> <li>7. 法人障害福祉サービス事業等 運営規程の一部改定について</li> </ol>
<p>第 5 回 令和 5 年 3 月 22 日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 4 年度指定障害福祉サービス事業者等実地指導の結果報告</li> <li>2. 理事長 職務執行状況報告</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東方会 第 4 次補正予算（案）について</li> <li>2. 東方会 令和 5 年度事業計画（案）について</li> <li>3. 東方会 令和 5 年度当初予算（案）について</li> <li>4. グループホーム KITEN、ショートステイ KITEN、グループホーム WAGEN、ショートステイ WAGEN、グループホーム ビラ・ラズリ 運営規程の一部改定について</li> <li>5. 医王保育園 給与規程の一部改定について</li> <li>6. 役員賠償保険契約について</li> </ol>

## 評議員会

開催年月日	議案等
<p>(定時評議員会) 令和 4 年 6 月 18 日</p>	<p>〔報告事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 3 年度 東方会事業報告について</li> </ol> <p>〔決議事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 令和 3 年度 東方会 計算書類及び財産目録の承認</li> <li>2. 社会福祉充実残額の報告</li> <li>3. 定款の一部改定について</li> </ol>

## 監事監査の実施

開催年月日	内容	意見・結果
令和 4 年 5 月 24 日	① 令和 3 年度事業報告書等	適正
	② 令和 3 年度計算関係書類（計算書類及びその附属明細書）及び財産目録	適正

# 1 差別や虐待がない地域づくり

## 人権擁護教育の継続

- 人権擁護推進責任者を中心とした活動
- 体系化された研修を継続的实施
  - \* 新型コロナ感染症の影響により 3 密を避けた研修体系へ変更となっている。

## 法人内研修

### 虐待防止委員会

#### 委員会活動

1 回／3 ヶ月、各事業所人権研修実施状況確認、イエローシート内容確認、施設入所体験研修実施状況確認、法人人権研修実施内容検討、年度計画テーマの話し合い等

#### 身体拘束等適正化委員会

1 回／3 ヶ月、身体拘束等適正化に関する指針に基づき止むを得ない身体拘束のチェック及び解除に向けた話し合い

#### 人権研修

6 月～3 月全スタッフが研修受講。4 つのテーマ（こころのバリアフリー・ある女性の出産・  
\* さまざまな障害 シルコトカラ \* 『見えない障害と生きる。』・逆転人生 「人生“最期の食事”で逆転できる」）に分け動画鑑賞・グループワーク実施

※ 佐賀県障害福祉課より「障害者の希望を踏まえた適切な支援について」依頼通知があっている。その内容は「北海道内の共同生活援助事業所の利用者が不妊処置を受けていた事案を受け、障害者等の意思及び人格を尊重して、常に障害者等の立場に立ったサービスの提供に努め、本人の自己決定を尊重しつつ意思決定を支援する、本人の生活の希望を丁寧に把握、支援方針等について丁寧に検討し、関係機関の連携の下、本人の希望の実現に向けた支援を提供すること」であった。この通知を受け、虐待防止委員会で内容確認し、法人内全職員へ周知を図った。

#### 虐待防止研修

声掛けマニュアル唱和・身体拘束適正化研修・虐待防止セルフチェックリスト実施（2 回／年）・声掛けマニュアル内容に沿い職員評価（1 回／年）・東方会版意思決定計画書に基づき支援実施及び意思決定支援ガイドライン、実施要綱再周知

#### 任意研修

2 月～3 月ラクスル勉強会（計 2 回実施）（人権擁護推進責任者主催：動画視聴）

※ 新型コロナウイルス感染の状況により開催中止。

#### 新人職員研修

4 月及び入職時に各事業所で実施。虐待防止・差別解消をはじめとする人権研修。

#### 施設入所体験研修

6 月～11 月まで 2 回／月実施。法人各事業所より派遣。6 名研修参加。

当初2月まで実施予定で17名研修参加する予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できず。

#### **意思決定支援計画書作成・実施**

東方会意思決定支援ガイドライン・実施要項に沿い、各担当事業所で作成・実施中

### **苦情解決委員会**

#### **委員会活動**

1回/2ヶ月、苦情解決規程に沿った要望・意見・苦情受付内容・対応内容の確認。苦情解決伝達研修実施検討・年度計画テーマの話し合い等

#### **苦情解決伝達研修**

8月～1月全スタッフを7つのグループに分け苦情解決対応の講義・ロールプレイ・グループワーク実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で4つのグループの実施となった。

### **クレド・マナー委員会**

#### **委員会活動**

1回/2ヶ月、クレド浸透状況確認、ありがとう券の活用推進、マナーアップに向けての取組、ホスピタリティの意識向上、年度計画テーマの話し合い等

- ・ 各事業所でマナーアップ向上を目指して（マニュアル）唱和
- ・ 素敵な人アンケート実施、フィードバック（1回/年）
- ・ ありがとう券集計、フィードバック（1回/2ヶ月）

#### **法人外研修**

佐賀県、佐賀県社会福祉協議会、その他種別団体主催の法人外研修を受講した。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、すべてオンライン研修受講となった。受講スタッフから事業所内他スタッフへ伝達研修を行った。延べ約30名程度受講

#### **意思決定支援計画書に基づいた意思決定支援の実施**

各事業所で意思決定支援ガイドライン・実施要項確認のうえ、意思決定支援計画書に基づき支援実施に取り組んだ。取り組みを継続する。

#### **人権擁護を目的に設置した安心カメラ導入後の評価**

利用者・家族、職員からの申し出による虐待と疑われるような不適切なケア、ハラスメント事項、介護事故等のリスク事項、苦情申し出事項等の事実確認において安心カメラ管理規程に基づき、それぞれの申し出に応じて録画内容の確認、検証を行った。映像、音声も鮮明に確認でき、人権擁護、ハラスメント防止、その他リスク事項の事実確認も確実に行うことができた。

結果として利用者、職員の人権擁護、ハラスメント防止に大きな役割を果たした。

安心カメラは適正な組織体制を保つチェック機能としての役割を担っている。

安心カメラが正常に作動しているかどうか定期的に作動チェックを実施しているが、入所施設においては施設の構造上、電波が届きづらい箇所があり、作動に不具合が生じた。

カメラの性能も日々進化しており、価格も安価になっている。より性能が高い違う機種への買い替えを検討したい。

### マナーアップ活動の推進

マナーアップ活動については前述の通り、クレド委員会が中心となり各事業所でマナーアップ向上を目指して：マニュアルや虐待防止委員会声掛けマニュアルの唱和を毎日実施した。8月にマナーアップのアンケートを全職員に実施し、マナーアップに関して日常的に意識して実施できているか確認、評価した。マナーアップマニュアル、声掛けマニュアルを通じて全スタッフの人権意識向上に繋がっている。

障害者支援施設においては、日頃の支援を振り返り、障害者支援施設スタッフとしてあるべき姿を法人全体の助言をもとに81項目に集約したマンダラチャートを作成し、スタッフの仕事のやりがい追求すると共に、指導の材料として有効活用し取り組んだ。その他法人内事業所においても取り組みが広がり、それぞれの事業所独自のマンダラチャートに基づき取り組みが開始された。

### 身体拘束等の適正化に対する取り組み

身体拘束等を如何に解除できるか1回/3ヶ月開催している身体拘束適正化委員会内で知恵を絞り、実際に身体拘束等の解除に繋がった。今年度は障害者支援施設の実地指導の際、ヘッドギアの装着も身体拘束に当たるとの指導を受けた為、即座に改善した。今後も現行の取組を継続する。

### 法人外における人権擁護啓発活動の強化

地域交流相談スペースについては、引き続き新型コロナウイルスの影響が大きく、感染予防を第一に考慮し、法人外の地域の方に積極的に活用して頂く広報迄至っていない。地域の感染状況を考慮に入れなければならないが、見通しが立てば人権擁護活動の発信に着手できればと考えている。

法人内人権擁護・教育活動内容の発信については法人内人権研修、苦情解決研修を始めとしてホームページのブログ紹介や法人情報誌への記事記載等、情報発信を行った。

### 新規グループホーム事業実施に伴う新人スタッフへの人権擁護教育の徹底

グループホーム WAGEN 事業開始に伴い、スタッフ増員となっており、4月、12月に開催された新人研修を始めとし、入職後の人権擁護教育を徹底した。今後も新人スタッフの増加が見込まれる為、人権擁護教育の徹底を継続する。

## 2 地域の核となる法人になる

### 新規グループホーム開設に向けて

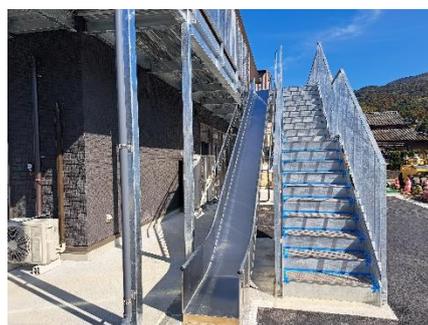
平成 29 年 11 月にグループホーム KITEN（きてん）を開所したが、地域に重度障害者を受け入れるグループホームがなく、在宅利用者や施設入所支援利用者の地域移行支援拠点として令和 4 年 4 月開設予定で整備を計画していたが、令和 3 年度の施設整備費補助金不採択の報告を受け、再度検討することとなった。

令和 4 年 3 月、令和 3 年度補正予算分で佐賀県障害福祉関係施設整備費補助金の採択を受けることができた。令和 3 年度補正予算での補助金採択であるため令和 4 年度中に建設等事業完了が条件であったが、関係機関、請負業者等協力もあり令和 5 年 3 月に開所することができた。新規グループホーム開設が遅れると、待機している利用者の方々の支援に影響が出てくることを懸念していたが、当初の計画から 1 年遅れでの事業所開設となった。

施設名称は『グループホーム WAGEN（わげん）』で、「和顔愛語」の「和顔（わげん）」に由来し、「和顔（わげん）」とは“やわらかな顔”という意味がある。\*「和顔愛語」は“笑顔で愛情のこもった言葉で話すこと”を意味している。他に、ドイツ語で wagen [ヴァーゲン] “思い切ってやる”という意味がある。

建物は鉄骨造 2 階建てとなっており、1 階・2 階と棟が分かれている。各棟名称は伊万里焼、有田焼にちなんで 1 階『HAKUJI（はくじ）』：白磁、2 階『AKAE（あかえ）』：赤絵となった。居室は全て個室で、1 棟当たりの内訳はグループホーム（共同生活援助）9 室と短期入所 1 室の計 10 室となる。1 階と 2 階は玄関フロアに設置のエレベーターでつながっているが、それぞれ内玄関を設置し、独立したフロアとなっている。

今回の整備により、当法人で推進している地域生活支援として、以前より入所施設利用者の地域移行での福祉ホームやグループホーム（共同生活援助）といった障害者の居住系サービスの充実と近年親亡き後の支援として地域資源が不足している中で、法人として更なる地域ニーズへの対応、障害の程度に応じて対応のできる体制整備に近づけたと感じている。



## グループホーム WAGEN

重度障害者グループホームを開設することで・・・



- 2階建て(2棟扱い)
- 各棟(各階)  
グループホーム 9室  
+  
短期入所 1室

入所施設からの地域移行

親亡き後の支援としての住まいの場  
(地域資源不足を解消)

既存施設と協働し  
障害の程度に応じた支援が可能

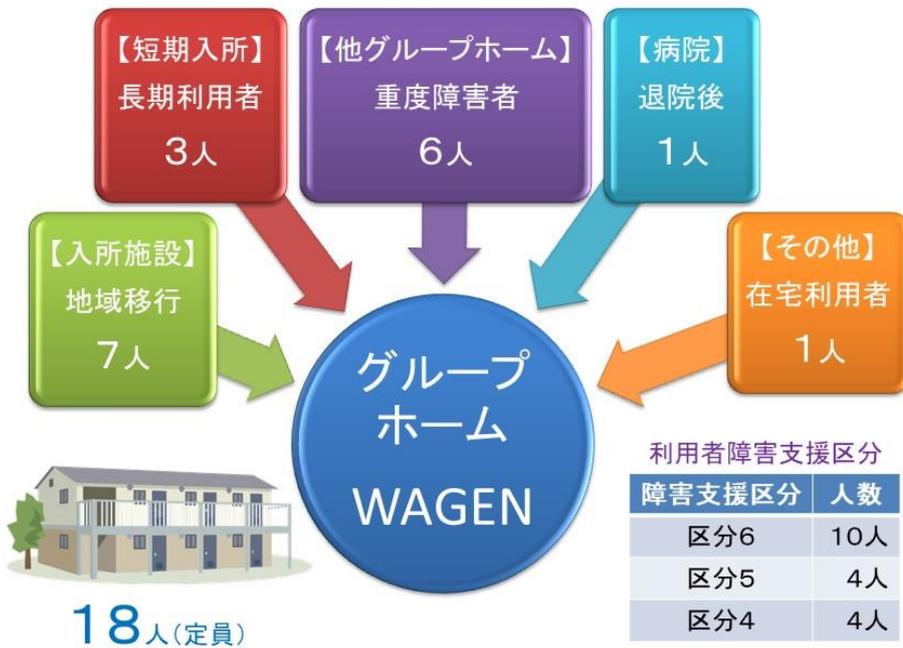
地域生活支援拠点としての役割

重度障害者  
グループホーム

- 2階建て(2棟扱い)
- 定員 9名×2棟

短期入所事業

- 2階建て(2棟扱い)
- 定員 1名×2棟



\*補足：上記以外、入所施設からの地域移行者 1名 (入所→グループホーム KITEN)

### 地域生活支援拠点事業

令和 3 年度末の基幹相談支援事業契約終了に伴い、地域生活支援拠点について多機能型から面的整備型へ変更し活動を行った。

### ① 相談

#### 入所施設から地域生活への支援

- 障害者支援施設瑠璃光苑利用者のうち8名について地域移行支援を実施

#### 障害者雇用支援事業所との連携

- 就労定着支援 RuRi との連携
- 障害者就業・生活支援センター ルートとの連携

#### 新型コロナウイルス対応

- 在宅利用者へ優先接種の案内

### ② 緊急時の受入・対応

#### 圏域外からの依頼増加

- 瑠璃光苑とショートステイ KITEN での短期入所の受け入れ
- 短期入所長期継続利用者の調整（行政、相談支援事業所）

#### 災害対応

- 地域定着支援利用者へ台風、積雪等災害時の安否確認、短期入所利用の促し

### ③ 専門的人材の確保・養成

三幸福祉カレッジと連携して、介護職員初任者研修、介護福祉士実務者研修を法人内で開催した。また、同行援護従事者養成研修は、昨年度まで基礎研修のみの開催だったが、より専門的に視覚障害者の外出支援を学べるよう、今年度は応用研修も開催した。

上記研修には法人外からも受講があり、地域における専門的人材の養成を図る目的を達成すると共に、法人本部棟内の研修施設や、地域交流相談スペース だいこく SUN の有効活用に繋がった。

次年度においても、継続して研修を実施し、地域の人材育成に寄与すると共に、法人職員の資格取得の推進、介護技術力の向上を目指していきたい。

#### 【研修実施 実績】

研修名	法人外 受講者数	法人内 受講者数	合計	実施回数 (年度内)
介護職員初任者研修	5人	4人	9人	1回
介護福祉士実務者研修	14人	3人	17人	2回
同行援護従事者養成研修 (応用研修)	4人	2人	6人	1回

#### ④ 地域の体制づくり

##### 自立支援協議会

- 基幹型相談支援が市直営後、今年度の開催なし

##### 相談支援事業の充実

- 佐賀県自立支援協議会人材育成部会への参画

#### ⑤ 体験の機会の場

- 伊万里特別支援学校 3 年生の卒後に向けた体験利用を実施  
(障害者就労支援センター、グループホーム KITEN、デイサポート瑠璃光苑)

### 地域公益活動の推進

今年度は、新たに『生活困窮者就労訓練事業』について佐賀県から認定を受け、法人内事業所に前記訓練を実施する準備を整えた。

この事業については、まだ訓練実績は無いが、今後、伊万里市社会福祉協議会等と連携し、様々な要因から生活困窮状態にある方の支援を実施していくこととしている。

また、伊万里市地域公益活動推進協議会に参画し、法人の車両に、『なんでも福祉の相談所』の案内ステッカーを張り付け、相談支援事業の浸透を図った。

さらに、12月1日に開催された研修会へ、当法人から4名の役職員が参加し、災害発生時における地域の事業所間の連携について学んだ。

法人主体の地域公益活動・交流活動については、アフターコロナを見据え、地域における活動が再開される中で、二里町ふれあいカワニバルを共催するなど、地域活性化の為の活動に積極的に取り組んだ。また、法人内に新設した『法人本部棟研修室』及び『地域交流相談スペース だいこく SUN』については、法人に設置した『地域貢献活動委員会』を中心に、近隣住民や団体へ活用の呼びかけを行い、佐賀県西部発達障害者支援センター蒼空による、発達障害児を持つ親を対象としたペアレントトレーニングが開催された。コロナによる制限がある中で、会議室利用団体は少なかったが、今後利用していただけるよう広報活動を引き続き行う。

### 【令和4年度地域公益活動の主な実績】

#### ① 市内複数法人間連携による地域公益活動 → 『なんでも福祉の相談所』活動実績

年度	相談件数	連携法人全体での相談件数	当法人に寄せられた相談件数	備考
平成31年度		2件	1件	年度途中より事業開始
令和2年度		13件	4件	
令和3年度		13件	7件	
令和4年度		18件	2件	

※ 上記件数は、『なんでも福祉の相談所』として相談受付をした数を掲載。

※ 参考として、法人相談支援事業で対応した相談件数を下記に記載。

② 市内複数法人間連携による地域公益活動 → 『なんでも福祉のみまもり隊』活動実績

年度 \ 相談件数	連携法人全体での 相談件数	当法人での 対応件数	備考
令和3年度	1件	1件	
令和4年度	8件	8件	

※ 上記件数は、『なんでも福祉の相談所』として相談受付をした数を掲載。  
参考として、法人相談支援事業で対応した相談件数を下記に記載。

〔参考〕法人相談支援事業所相談件数 (件)

年度 \ 相談件数	基幹型相談	PSC 空	RuRi	居宅支援	備考
平成31年度	5,863	6,566	3,226	703	
令和2年度	6,911	7,025	3,211	638	
令和3年度	5,038	10,121		640	
令和4年度		14,463		710	

### 3 容易に揺るがない経営基盤の構築

#### 感染症対応

グループホーム、入所施設においてクラスター感染が2件発生した。特に入所施設のクラスターは利用者、スタッフ合わせて67名が感染するという大規模クラスターとなり、収束までに40日間を要した。

2件の対応については、法人で定めるBCP（事業継続計画）に基づきゾーンニングなどの感染防御をおこなった。しかし、多床部屋中心の入所施設では連鎖的感染を押さえきれず利用者のほとんどが感染する結果となり、2名の尊い命が失われた。

① グループホーム ビラ・ラズリ（共同生活援助：利用者12名）

期 間	8月6日～26日
感 染 者	5名
重 症 者	0名
スタッフ感染者	4名

※ 法人内から選抜された専属スタッフによる対応、ゾーンニングでは個室隔離の効果があり感染拡大を最小限に抑えることができた。

② 障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援：利用者 42 名・短期入所：利用者 7 名）

期 間	12 月 12 日～1 月 21 日
感 染 者	42 名（入所 36 名／短期 6 名）
重 症 者	7 名（*救急搬送→入院）
死 亡 者	2 名（*コロナ関連死）
スタッフ感染者	25 名

※ 年末年始 12/26～1/5 までの期間に利用者 33 名・スタッフ 16 名の感染が集中し、ゾーニング、環境消毒、療養支援、スタッフ手配など BCP（事業継続計画）の想定を超える対応となった。

#### 新型コロナウイルス感染症対応期間の法人事業継続について

- **グループホームでのクラスター**

全事業規模を縮小しながら事業継続できた。しかし、スタッフ派遣や法人内の人的交差などを避けるために日中活動、移動支援などの縮小により利用者の暮らしに影響が発生した。

- **障害者支援施設でのクラスター**

一部の事業のみ継続をおこなった。年末年始を除き、全事業部署スタッフが入所スタッフの支援に集中した。特にデイサポートとホームヘルプは一部の利用者を除き、年明けに 10 日間程度事業を停止し、利用者の生活にも大きく影響した。

#### 令和 4 年度新型コロナウイルス感染症対応での課題

- **BCP（事業継続計画）の改定**

- ・ いずれの場合もスタッフの感染からクラスターが発生した
- ・ 入所施設（多床部屋）での感染防御体制の崩壊
- ・ 重症者・死亡者を発生した
- ・ コロナ対応に関するスタッフ配置の課題（年末年始、シフト回避など）

#### 令和 4 年度制度変化対応

##### ベースアップ加算導入対応

- 本部で申請
- 各事業所において重説等契約関係書類の更新と利用者への同意説明を実施した
- 請求関連においても本部主導のもと円滑に対応できた

災害時 BCP（事業継続計画）を防災委員会が策定し、スタッフへ周知した

#### 令和 6 年度報酬改定 情報収集

- 経営会議（第 1・第 3 月曜開催）にてメールによる行政情報、所属団体からの情報提供、メディア社会保障関連情報などの確認を行い、令和 6 年度の事業影響を想定した

#### 大國拠点新規福祉サービス等事業整備

##### 法人全体で相乗効果がもたらされた

- 各事業所間で連絡調整が活発化し、多職種の情報共有をベースとした法人内連携機能が強化された
- 育成指導機能：通年にわたり人材確保をおこない新人教育が随時行われた

#### 安心と安全〈継続〉

SDGs 活動 →内容理解にとどまり具体的活動に反映できていない（\*課題）

##### 全社的取り組み

- 災害時 BCP（事業継続計画）が完成し、自然災害時の対応について内容理解に努めた（\*課題）
- 感染症 BCP（事業継続計画）は大規模クラスターを受けて改定が必要（\*課題）

##### 不適切支援防止のための取組強化

- 令和 4 年度佐賀県実地指導 指摘事項
- 入所：精神的虐待案件、県への事故報告の漏れ（\*課題）

#### 法人事業変化対応

##### 新規グループホーム開設に伴う各事業の変更

- 入所事業所（グループホームへの地域移行・待機者の受入れ・日中活動での受け入れ準備）
- 既存グループホーム（新規グループホーム等への転居支援・待機者の受入れ）
- デイサポート（新規グループホームからの受け入れ準備）
- 障害者就労支援センター（新規グループホームからの受け入れ準備）
- ホームヘルプ（移動支援ニーズ等対応）
- 短期入所（短期入所長期利用者の解消）
- 相談系（入所者の地域移行支援・在宅利用者のグループホーム支給申請）
- 医務（新規グループホーム健康管理体制）
- 給食（新規グループホーム食事提供のサポート体制）
- 本部（資金調達・建設管理・監督官庁への手続き）

#### サービスの質の向上

##### 人権教育（新人から中堅までの一貫した教育体系）

→雇用形態ごとの研修実施

## 意思決定支援の定着

→入所施設で個別支援計画に織り込み実施体制を整えたが、対象利用者すべてに効果的実践が行えていない（\*課題）

## 自立支援視点を強化

→重度利用者グループホーム移行を目標とした取組の中で実施できた

## 相談支援業務の地域ニーズ把握強化

→LINE WORKS 情報提供数は飛躍的に伸びた

## 圏域外の救護的ニーズへの対応

→法人相談支援も含め広域から要望に応えた

## 利用者満足度が業績向上する仕組みづくり

→事業部制の導入による効率効果的な連携が強化された

→相談支援を主宰としたモニタリング担当者会議の継続実施

→サービス調整会議の徹底（新規受入れ、サービス再開、退院時カンファレンスなど）

→加算対象マネジメント管理体制の見直し（\*課題）

## 一体経営を目指した仕組みの確立

### 部門制の導入による意思決定の迅速化

### スプレッドシートの有効活用

経営管理シート：・改善起案数（令和4年度80提案）・コロナ対応時の情報確認

### LINEWORKS の効果的活用を強化

コロナ対応時、状況報告・指示通達などに絶大な効果を発揮した

### 令和3年度末に年度評価・計画書様式の変更を実施

想定効果を確認できた（策定効率・計画管理のしやすさ）

### 業務管理マニュアルの整備

→今年度機構・事業変化終了、令和5年より策定（\*課題）

## スタッフへの働きかけ〈新規〉

### リーダー育成

- 部門週間ミーティングを欠かさず、ミドルマネージャーとしての自覚を高めマネジメント能力を高めた
- 全体会議内にリーダー研修を導入し、全法人的課題についてグループワークを通じて検討した

### スタッフ育成

- 新規グループホーム開設に伴う事業変化により、多くの新採スタッフが入社した。各事業所で雇用形態別に実践的な新人教育が実施され、上位スタッフの教育能力も向上した
- 利用者への感謝と、スタッフ間での助け合いを育む教育について検討した（\*課題）

### 働きやすさと生産性のバランスを意識した取組

- 経営管理シートを刷新したことにより「生産性」に対する理解が高まった

- サービス向上をさせながらムリムダムラを無くす改善作業を推進し、件数を見える化したことで「仕事のしやすさ」が実感できるようになってきた

#### 職場風土

- リーダーの指導により理念や目的による結びつきが基本となることが意識されつつある。全法的にスタッフ間の感情的トラブルが極端に減少した

## 4 働きたい法人となる

今まで4月1日には辞令交付のみを行っていたが、令和4年度より新採スタッフ、昇格スタッフ等が参加する入社式を開催した。またその様子を各事業所に配信することで、法人全体で気持ちも新たに年度のスタートを切ることができた。その後、伊万里商工会議所のビジネス基礎研修を含めた新人研修を6日間にわたって開催した。

5月と11月には新たに医療法人社団ヤマナ会様にはるばる広島より来所してもらい、健康診断を行った。リフト付きのレントゲン車や乳がん検診車などを使った健診は、スタッフはもとより利用者にも負担が少なく、好評だった。病院スタッフのチームワークの良さには感心することも多く、介護スタッフの刺激にもなったと思う。健診結果に応じて二次健診を受けたスタッフも例年より増え、自身の健康の大切さへの意識付けにもつながった。

9月よりグループホーム WAGEN の建設工事が本格的に始まり、それと並行して求人活動にも力を入れた。グループホーム WAGEN とグループホーム KITEN では週休3日制の導入を決定し、ハローワークなどの企業説明会やホームページにおいて積極的に PR ができた。3月1日の WAGEN 開所に向け、必要なスタッフを採用することができた。

法人委員会活動では、「地域貢献委員会」を立ち上げた。まずはパーソナルサポートセンター空(くう)の附属設備である地域交流相談スペース「だいこく SUN」や事務所棟研修室を地域の皆さんに知ってもらうため、ポスターやチラシを作成し掲示・配布を行った。

### スタッフの状況

- 年代別状況

	～20代	30代	40代	50代	60代	70代～	総計	比率
正職員	18	29	38	24	7	0	116	61.05%
パート等	4	10	10	6	26	18	74	38.95%
総計	22	39	48	30	33	18	190	
比率	11.58%	20.53%	25.26%	15.79%	17.37%	9.47%		

- 管理的職員の状況

	主任	副主任	GL	総計	比率
男	2	5	3	10	34.48%
女	6	5	8	19	65.52%
総計	8	10	11	29	

注)GL:グループリーダー

- 主な資格の取得状況

介護福祉士	57	保育士	15	管理栄養士	2
社会福祉士	13	看護師	8	栄養士	7
精神保健福祉士	8	准看護師	3	調理師	14
作業療法士	1				

\*今年度 育児休業取得 8名、 育児短時間勤務 8名

初めて男性スタッフ 2名が出生時育児休業を取得

\*障害者雇用率 6.21%

## 採用機能の強化

- 採用

	正職員	パート等	計
令和4年度	19	15	34
令和3年度	5	9	14

グループホーム WAGEN 開所に向けて積極的に採用した。

ハローワーク主催の企業説明会に参加（伊万里 2回、佐世保 1回）

ケーブルテレビでの求人 CM 放送（伊万里コンテンツ中継）

伊万里商工会議所主催の web 企業説明会に参加（令和 6 年 3 月新卒者向け）

ホームページ更新（求人情報発信を強化）

- 退職

	正職員	パート等	計
令和4年度	9	8	17
令和3年度	6	7	13

正職員（9名）の平均勤続年数は3年9か月

## 人材育成、資格取得支援

### 定着支援

- 年次有給休暇の取得率

利用率： 正職員 72.1% パートタイマー等 90.9% 全体 77.9%

- 永年勤続者表彰  
勤続 20 年 3 名 勤続 10 年 9 名
- 福利厚生の実施
  - ・ 介護福祉士資格取得のための実務者研修・受験対策講座等の法人施設での開催 3 名
  - ・ 介護職員初任者研修の法人施設での開催、受講費法人負担 4 名 245,784 円
  - ・ ファイナンシャルプランナーによる研修（新人職員研修） 7 名
  - ・ サガン鳥栖法人向け年間シート活用 7 組 14 名
  - ・ 黄色い靴助成（健康診断 2 次検査費用負担） 34 名 165,320 円
  - ・ インフルエンザ予防接種 169 名 320,100 円
  - ・ 子どものインフルエンザ予防接種費用助成 17 名 53,300 円
  - ・ ソウエルクラブ加入 会費 10,000 円×110 名=1,100,000 円
    - ・ 永年勤続記念品 5 年 9 名・10 年 5 名・15 年 6 名・20 年 3 名  
25 年 1 名・30 年 1 名
    - ・ 資格取得記念品 介護福祉士 6 名・社会福祉士 1 名・精神保健福祉士 1 名  
公認心理師 1 名
    - ・ 健康生活用品給付 110 名
    - ・ 子の入学お祝い品 5 名
    - ・ 出産お祝い品 4 名
    - ・ 映画鑑賞券一部助成申し込み 220 枚
    - ・ 家庭用常備薬斡旋利用
  - ・ 社会福祉施設従事者相互保険加入 166 名 738,460 円
    - ・ 長寿お祝い金 3 名
  - ・ 団体総合生活補償保険 10 名（70 歳以上） 13,800 円
  - ・ 高齢運転者講習 6 名 99,000 円
  - ・ 割安な価格での給食提供 2,789 食
  - ・ 団体扱自動車保険 21 名
  - ・ 腰部サポートウェア「ラクニエ」の支給（瑠璃光苑・デイサポート瑠璃光苑）
  - ・ 法人会員フィットネスジムの利用 86 名（延人数）
  - ・ 冬用タイヤ等の一時保管場所提供 5 名
  - ・ 家賃補助 2 名
  - ・ 業務配慮制度（私傷病により直接介護の免除、妊娠に伴いひとり勤務の免除等）  
15 名
  - ・ 社会福祉施設職員等退職手当共済制度受給 11 名
  - ・ 顧問弁護士への個別相談
  - ・ 社会保険労務士への個別相談
  - ・ 開苑記念式典に合わせてスタッフへ伊万里特産品（明太子）の提供
  - ・ 健康診断受診病院の変更

- ・ 乳がん検診車－別日に病院での検診が不要
- ・ 乳がん検診－社会保険未加入スタッフも受診（費用は法人負担）
- 働きがいを高めるために
  - ・ 法人横断的委員会活動の実施（他部署スタッフとの協同・交流）
    - 正職員 1 年目は、1 年をかけて全委員会を見学
  - ・ ありがとう券の提出 1,018 枚
  - ・ 素敵な人アンケートとフィードバックの実施
  - ・ 国見中学校 職業講話 講師として参加
  - ・ 二里小学校、伊万里特別支援学校、東山代小学校 福祉体験学習 講師として参加（伊万里市地域公益活動推進協議会の地域活動）
- 福祉・介護職員等ベースアップ等支援加算（福祉・介護職員処遇改善臨時特例交付金）活用によるベースアップの実施（障害・介護グループ）
  - 正職員 月額 6,000 円(パート職員等 時給 30 円)アップ
- 施設型給付費等に係る処遇改善等加算（保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例交付金）活用による新たな手当の支給（医王保育園）
  - 正職員・準職員 月額 9,000 円(パート職員 時給 40 円)アップ
- 短時間労働者に対する健康保険・厚生年金保険の適用拡大への対応
  - 令和 4 年 10 月から週の労働時間が 20 時間以上のスタッフ 21 名が社会保険加入対象となった
- ハラスメント防止研修の実施（全スタッフ対象）
  - 動画視聴「職場におけるセクシュアルハラスメントの防止に向けて」
- 伊万里商工会議所「伊万里ふるさと企業ガイド」掲載登録
  - （いまり暮らしスタート支援金対象）
  - 伊万里市以外から移住して就職したスタッフを応援

### 管理的立場のスタッフ（グループリーダー以上）の資質向上

- 全体会議の職位に求められる力を身につける研修の充実
  - ・ 「日頃から課題に思っていることを階層別で考え、スッキリ改善！」
  - ・ グループホーム WAGEN 開所に備え、職位別のグループワークを行った。部署を越えた一体感を感じることができた
- グループリーダー等昇格者研修の開催（4 名）
- 福祉大臣活用による業務効率化
  - ・ 月次試算や予算進捗状況の確認方法を解説

### スタッフの資質向上

- 介護職員実務者研修 3 名 受講支援（場所の提供、業務配慮）
- 介護職員初任者研修 4 名 受講支援（業務内受講、受講費負担、場所の提供）
- 同行援護研修（応用） 2 名 受講支援（業務内受講、場所の提供）
- 新人職員研修 16 名（今年度は 2 回開催）

## 研修派遣計画

- オンライン研修の環境整備、並びに、受講促進
  - ・ 事務所棟研修室や地域交流相談スペースだいこく SUN の活用
  - ・ 佐賀県社会福祉協議会の研修をはじめ、多数の研修を受講
- 集合研修の再開
  - ・ 第 41 回全国社会福祉法人経営者大会（青森県） 参加 3 名
  - ・ CareTEX 福岡 参加 7 名
  - ・ 九州ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー（伊万里） 参加 5 名 \* 事務局担当
  - ・ 九州ブロック社会福祉法人経営青年会視察研修（栃木県） 参加 1 名
  - ・ 全国経営協障害福祉事業経営セミナー（東京都） 参加 1 名
  - \* パネリストとして登壇。地域共生社会の実現に向けた障害福祉事業経営のあり方について提言。
  - ・ 全国経営協自己点検・分析支援セミナー、中長期計画策定セミナー（東京都）参加 1 名

## 資格取得

- 主な資格取得・更新実績
  - ・ サービス管理責任者 基礎研修 3 名 実践研修 1 名 更新 3 名
  - ・ 相談支援専門員 1 名 更新 1 名
  - ・ 同行援護研修（応用） 2 名
  - ・ 介護職員等による喀痰吸引等実施のための第 3 号研修 2 名

## 健康管理

### 持ち上げない介護推進

- 健康診断受診病院の変更
  - ・ 利用者レントゲン撮影 ー リフト付き検診車により抱えない介護の実現
  - ・ 双方の負担が軽減され、利用者にもスタッフにも好評だった。
- 入所施設
  - ・ 低床ベッドへの入れ替え（令和 4 年度で完了）
  - ・ ベッド用リフト 2 台導入  
（佐賀県障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業費補助金活用）
- 抱えない介護推進の見える化
  - ・ 直接介護事業所別にリストを作成し、支援内容の見える化を図った。

## 業務効率化

### ICTの活用

- 医王保育園では、保育計画、日誌等の業務ソフトを導入し、紙書類の削減ができた。
- 紙面で行っていた人事評価を Google フォームに変更したことで業務効率化につながった。

## 各事業部門の報告

### ① 医王保育園

#### 入園児の状況

- 延べ 619 名の子どもを迎え、保育理念及び保育目標に基づき、充実した保育にあたることができた。

#### 園内研修 「SDGsの取り組み」

- SDGs の取り組みを通し、友だちと目的を共にし関わる中で、思いやりの心や協同性の育みに努めた。

#### うちどく活動

- 各クラスで用意した 1 冊の絵本を持ち帰り、家庭で読書を楽しんでもらう取り組みを、リレー形式で実施した。

#### 食育活動（園内研修を含む）

- 「地産地消」の活用の一環として子どもたちと共に野菜作りや収穫を実施した。
- 食材に関するクイズや絵本の読み聞かせなど、食を感じる環境作りを行った。
- アレルギー児への対応やひとり一人のその日の体調に配慮した食事提供に努めた。

#### 施設設備

- 保育室の水回り床の補修や園内の排水管清掃を行い園内の美化を図った。

#### 地域支援

- 短大生の保育実習として、2 名を受け入れ、指導という立場でスタッフもよい刺激を受け、日ごろの保育を省みる機会となった。
- 行事に参加し、地域との連携、交流を図ることができた。

### ② 障害者支援施設 瑠璃光苑（施設入所支援・生活介護・短期入所・日中一時支援）

#### 利用者の状況

定員 40 名（入所者 42 名 \*令和 5 年 3 月より 41 名）

※入院者数延べ 660 名（前年度より 138 名増加）

- 11 名の退所者（死亡：4 名、地域移行：7 名）、10 名の新規入所者あり。  
前年度の平均年齢 60.0 歳より 56.5 歳となり 3.5 歳低下
- 平均障害支援区分は 5.87 で前年度と比較して 0.08 低下
- 12 月から 1 月にかけて新型コロナウイルスのクラスターが発生し、入所、短期入所利用者合わせて 42 名の罹患者が出た。内 2 名の利用者がお亡くなりになった。

現在 17 名の入所利用者が就労支援事業（生活介護・生産活動あり）「Job センター シャキッと」に通い、働く喜び、生きがい作りに繋がっている。

#### 組織力・チーム力の強化

助け合い、思いやりをテーマにマンダラチャートの取り組みを継続し、9 月に項目の更新を行った。

## サービスの質の向上

- 自己実現を目指した個別支援の実施（継続）
- 相談担当者との連携による要望、希望に基づいた業務、サービス改善
- 「栄養ケアマネジメント」「リハビリマネジメント」（個別支援の向上）（継続）
- 低床ベッドの導入 ＊令和4年度で終了
- インカムを活用したサービス改善・業務効率化の推進（継続）
- 意思決定支援の取り組み強化（意思決定支援計画書作成）（継続）
- 標準管理の徹底（継続）
- 支援内容のデータ化・傾向分析力の向上（継続）

## 通所型生活介護サービス

13名の新規利用者があり、1日平均利用5.17名。（前年度より0.41名減少）

新規入所や施設移行、死去により6名契約解除となったが、WAGEN開設に伴い新規利用者が大幅に増えている。

## 短期入所（併設型）

- 1日平均利用者数9.3名（前年度より2.03名減少）
- 新規入所及びグループホームWAGEN開設に伴い、定期利用者、長期短期入所利用者が契約解除となっており、利用者数の減少に繋がっている。
- 緊急時の受入要請には当圏域はもちろんのこと、他圏域の要請も可能な限り対応している。

## 日中一時支援

- 延べ利用者数371名（前年度より118名減少）
- 契約者数20名
- 1名の利用者が他施設入所されたことと新型コロナウイルス感染症発生期間の受入停止により利用減となった。

## 医務係

### 感染症対策

- インフルエンザ予防接種実施
- 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種実施
- 新型コロナウイルス感染症予防（抗原検査キット活用・情報提供・情報提供・衛生用品管理・代理通院）  
※感染症予防研修会はコロナ感染防止対策のため中止。

### 骨粗鬆症予防

- 整形外科受診し骨密度測定及び内服治療

### 口腔衛生

- 歯科検診実施

## 令和4年度年間取組（実績）

- 6月 スタッフ・利用者健康診断
- 8月 利用者：新型コロナウイルスワクチン接種4回目実施
- 9月 医療懇談会（資料配布）
- 11月 利用者・スタッフ健康診断
- 12月 利用者：新型コロナウイルスワクチン接種5回目実施

※8月褥瘡研修、3月摂食嚥下研修は、新型コロナ感染防止対策のため中止。

## 給食係

総配食数 76,029食（内グループホーム食事配送 10,198食）

- 栄養ケアマネジメントにより利用者1人1人に合わせ食事状況に沿った食事支援を実施
- 経口維持計画書を基に、経口からの食事支援を継続
- 食事量・栄養量もしっかり補えるソフト食と栄養補助食品の提供を継続
- R-1ヨーグルト提供継続（感染症予防と免疫力向上）
- 利用者から積極的に要望を聞き、献立に反映できるよう努めた
- 利用者の満足度を高めるため新メニューの導入を定期的実施
- 新型コロナウイルス蔓延時には、各部署からの要望に沿い、食事サービスを継続して提供できるよう努めた
- グループホーム WAGEN が開所し、生活サポーターでの業務配置でスタッフのやりがいを考え、食事サービスの向上に繋げた

## ③ モーニングサポート（地域貢献事業：法人独自事業）

- 登録者4名（定員5名）
- 感染症対策行いながら実施した。伊万里特別支援学校との連携を意識し、見守りや学校への送迎を安全に行った。

## ④ デイサポート瑠璃光苑（生活介護）

- 令和5年3月末登録者数 50名（新規利用者 11名、契約解除者 9名）
- 利用者総数 5,720名（計画比 92.1%） 1日平均 19.2名（前年度 20.6名）  
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。サービスの縮小、休止、利用自粛等により利用者数が減少した。買い物や地域交流などの社会参加の行事がなくなり、感染症対策等による心理的影響にも配慮しながらコミュニケーション機会を増やすため、感染対策に努めながら日中活動：レクリエーションの充実に努めた。
- 新型コロナウイルス感染症対応
- コロナ禍における利用者メンタルへの配慮
- グループホーム WAGEN 開設に向けての準備
- 個別支援ソフトを活用したサービス
- 意思決定支援計画書の運用
- 日中活動の更なる充実

## ⑤ 瑠璃光苑 ホームヘルプ事業（居宅介護・同行援護・訪問介護・総合事業・移動支援）

令和5年3月末登録者数 98名

新規利用者 28名

\*内訳： 居宅介護 13名、同行援護 1名、訪問介護 1名、総合事業 1名、移動支援 12名  
利用枠拡大 7名

\*内訳： 居宅介護 4名、同行援護 3名

契約解除者 13名

\*内訳： 居宅介護 4名、訪問介護 2名、同行援護 2名、移動支援 5名

法人内クラスター発生時の応援体制、コロナ罹患者（濃厚接触者）宅への訪問といった感染症対策、対応力の強化に取り組んだ。国や県の方針等をこまめに確認しながら、利用者に寄り添った支援ができるように心がけた。感染症対策用品やマニュアルをコロナ元年から整備してきたことで、安心して利用者はサービスを利用され、スタッフは支援を行うことが出来たと考える。

また、グループホーム WAGEN 開設に向けて、通院介助や移動支援の対応を行うにあたり、入所施設から移動支援の兼務者を配置した。これまでにないスタッフ数となったが、細かい申し送り等を重ね、スムーズなサービス提供に繋げることが出来た。外出を通して重度障害者の社会参加を支えていきたいと考える。

- グループホーム WAGEN 開設に伴う、通院や外出支援の体制整備
- 安心して利用していただける体制づくり（感染症対策として緊急時携行品の整備）
- 感染症対策を徹底しながらの外出系サービス実施
- やむを得ない身体拘束についての各種研修会の実施
- 利用者の意思決定支援についての研修
- 感染症対策を徹底してホームヘルプ事業所研修の実施（法人内事業所への参加呼びかけ）
- 冬場の全公用車へのスタッドレスタイヤ装備
- 夏場の携行品の整備（酷暑対策・熱中症予防）

## 障害者就労支援センター（Job センター ピシャット・シャキット・キリット）

- 障害者就労支援センター（多機能型）としての利用者総数は 9,195 名（目標 10,456 名）  
1 日の平均利用者数 36.2 名
- 新型コロナウイルス感染症の流行により、利用者やその家族の罹患に伴う欠席や法人内でクラスターが発生したことにより、その影響を受け、当センターの利用者数も目標値には至らなかった。
- 令和 4 年度は、社会就労センターへ加盟した。就労活動に関するスタッフのスキルアップや販売活動の促進（赤い羽根共同募金への協賛品出品等）につながった。
- 令和 5 年 3 月 WAGEN 開所に伴い準備をすすめた。Job センターシャキットの土曜日稼働や送迎サービス、グループホーム利用者の洗濯対応など、滞りなく開始する事ができた。
- 就労支援事業収入（売上額）  
Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型） 15,029,196 円（前年比 107%）

Job センター シャキット（生活介護） 1,071,673 円（前年比 131%）

Job センター キリット（就労移行） 1,151,445 円（前年比 79%）

※ 令和 3 年度末から取りかかった大型受注の売上や、新規受注等もあり、売上向上に繋がった。

## ⑥ Job センター ピシャット（就労継続支援 B 型）

- 利用者は延べ 6,471 名（1 日平均 25.5 名）
- 令和 4 年度末日時点登録者 42 名
- 新規利用者 3 名、契約解除者 6 名

### 重点項目

- 新規利用者獲得に向けた取組み  
⇒ 伊万里、有田の行政や相談支援事業所、医療機関及び居宅介護支援事業所向けにパンフレットを作成し、配布を行った。また、伊西地区ケアマネ会でピシャットの事業所紹介を行った。結果として、新規 1 名を居宅介護支援事業所から紹介を受けた。
- スタッフ担当制の明確化  
⇒ 各種作業に対する担当者を明確にし、生産管理や設備等の対応など責任を持って対応する体制整備を行った。また、利用者の個別支援においても、担当制にすることで、支援の充実を図った。

### 作業内容

- 印刷作業（名刺やチラシ、製本印刷、オリジナルカレンダー等）
- 布商品製造・販売（オリジナルバッグや小物入れなどのハンドメイド）
- 洗濯作業
- 清掃作業
- 請負作業（チラシ封筒詰め、ゴム手袋の袋詰め等）
- 平均工賃月額 26,524 円（前年度 22,055 円）

## ⑦ Job センター シャキット（生活介護）

- 利用者数は延べ 1,916 名（1 日平均 7.5 名）
- 令和 4 年度末日時点登録者 32 名
- 新規利用 8 名、契約解除者 3 名

### 重点項目

- 生産活動収入の安定化  
⇒ 洗濯作業での固定収入や新規でレタスの仕入れ販売を開始し、上記記載の通り、前年度を上回る工賃を支給することが出来た。
- 利用者評価賞与の導入  
⇒ 令和 4 年度から、評価に基づき利用者の賞与額を決定し、支給した。利用者の作業意欲向上に寄与している。

### 作業内容

- 布商品作成・販売（小物入れや、子供向け商品等）

- 季節商品製造（クリスマスや正月飾りなど）
- 工賃日額 380 円（前年度 250 円）

### ⑧ Job センター キリット（就労移行支援）

- 利用者は延べ 808 名（1 日平均 3.2 名）
- 令和 4 年度末日時点登録者 3 名
- 新規利用者 1 名、契約解除者 4 名（就職 2 名、その他 2 名）
- 就職 2 件、職場実習 2 件

#### 重点項目

- 利用促進活動（新規受入に向けた広報活動）  
⇒ 令和 3 年度より行っている活動のフォローとして、圏域内だけでなく、唐津・武雄・嬉野方面の医療機関等への広報活動を継続した。
- 支援の質の向上  
⇒ 就職 4 件の目標を掲げていたが、新規利用者の受け入れが難しい状況が続いたことと、安定利用が難しい利用者がいたこと等から、2 名の就職にとどまった。また、利用者支援のツールの整理と新規フォーマットの作成を行った。各種ツール等を活用し、利用者の就労意欲向上に向けた支援を展開していく。

#### 作業内容・活動内容

- 生産活動（洗濯、陶器加工、網戸張替等）
- パソコン訓練や施設内の清掃等、就職する際に必要となる活動や訓練
- 施設外支援（ハローワークでの求職活動、職場実習等）
- 交流会（在職者と現利用者の交流）＊年 1 回（12 月開催）
- 工賃日額 2,750 円（前年度 2,300 円）

### ⑨ ジョブコーチ（職場定着支援）

- 支援対象者 2 名
- 新規 2 名
- 令和 4 年度のキリットからの就職者が少なかったため、支援対象者数は減少した。支援の対象者については、6 ヶ月のジョブコーチ支援後、スムーズに就労定着支援 R u R i のサービス利用に移行した。

### ⑩ 就労定着支援 R u R i（就労定着支援）

- 年間利用者数 9 名
- 新規利用者 2 名、契約解除 2 名
- 開設から 2 年目のサービス実施。安定して就労定着出来ている利用者もいれば、課題を抱えながら就労している利用者もいる。利用者への支援と同時、事業所への支援として、ナチュラルサポートの体制構築に向け支援を行っている。

## ⑪ グループホーム K I T E N（共同生活援助）

- 年間延べ利用者数 4,987名（計画比 98.1%）
- 医務係と情報共有を図り、健康管理や早期発見の通院対応に努めている。
- 令和5年3月1日のグループホーム WAGEN 開所に合わせ、週休3日制の WAGEN と一体的な職員体制で支援を行った。

### ショートステイ K I T E N（短期入所）

- 年間延べ利用者数 918名（1日平均 2.5名）前年比 81.9%
- 新型コロナウイルス感染症による影響、定期利用者の逝去もあり予定していた利用数より大幅に減少した。

## ⑫ グループホーム ビラ・ラズリ（共同生活援助）

- 年間延べ利用者数 4,033名（計画比 92.1%）
- 高齢化・重度化が少しずつ進み、介護施設へ移行やグループホーム WAGEN、KITEN へ利用者の移動もあった。それ以外も特に健康面に留意し、支援を行った。
- 医務係と情報共有を図り、健康管理や体調不良者の早期発見と通院対応に努めている。
- 令和4年8月に新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者5名、職員2名のクラスターが発生し、半月以上の隔離期間があった。

## ⑬ グループホーム W A G E N（共同生活援助）

- 令和5年3月1日開所 17名の入居があり3月の延べ利用者数は527名
- 介護リフトを導入することで、抱えない介護、1人介助を実施している。
- 週休3日の職員体制で支援を行っている。隣接のグループホーム KITEN と一体的な体制により、生活支援員は他部署の兼務はなく配置できている。

### ショートステイ W A G E N（短期入所）

- 令和5年3月1日開所 3月中の利用者実績なし

## ⑭ パーソナルサポートセンター 空（くう）（一般・特定・障害児・地域相談）

計画相談、障害児相談において、医療や教育、福祉など多種多様な専門機関と連携を図る機会も増加し、定着している。多職種間との連携について加算対象となったこともあり、積極的な加算取得に繋げることができている。

下期においては、職員の異動や退職が続き、異動職員の人材育成・指導にも力を入れている。現状を鑑み、新規受付は中止している状況となっているが、圏域内に新たに相談支援事業所が開所したこともあり、新規相談があった際は連携を図りながら対応している。

グループホーム WAGEN の開所に伴い、地域移行支援のサービスを提供することで利用者が不安なく、グループホームへの地域移行・入居ができるように支援することができた。

今後も利用者が安心して地域生活が送れるよう、各関係機関と連携を図りながら対応していく

令和4年度相談種別支援件数（実績）

件数（件）

支援項目	特定・障害児相談支援事業		一般相談支援事業	
	障害者	障害児	地域移行	地域定着
利用計画	331	246	0	62
モニタリング	896	470	29	—
合計	1,112 (前年比 90.6%)	809 (前年比 113%)	29 (前年比 290%)	62 (前年比 65.3%)

### ⑮ 瑠璃光苑 居宅介護支援

令和4年度7月に運営指導で、ケアプランの訪問介護等の利用状況が説明されていないとの指摘があり重要事項説明書に追加した。

利用者については、死亡や施設入所等で12名減り、新規利用者7名となり、収入は予算を下回った。新規の紹介先は地域包括、病院、他事業所等からだった。研修等はオンラインで受講している。

令和4年度活動実績

実人員（人）

市町名	要支援者	要介護者
伊万里市	13	33
有田町	1	2
合計	14 (前年度より - 2人)	35 (前年度より+1人)

## 委員会活動報告

- ◆ 東方会では、各事業部門の組織・スタッフによる横断的な取組として以下の委員会活動を行っています。この横断的な活動により、事業部のみに偏った狭義の組織ではなく所属を超えた意見や活動を行うことでの相乗効果と全体最適を目指します。

### ① リスク管理委員会

法人内のリスクに関する啓発活動を中心に行った。

- WAM NET からの事例活用し危険予知訓練（KYT）の実施・スタッフへの啓発強化
- 全国安全週間前に労働災害防止の為、LINE WORKS での啓発
- 内部監査と連動した安全パトロールの実施（4回／年）
- 各部署の困りごと確認・各委員会との連携

### ② 防災管理委員会

- 法人全体での防火・防災の取組
- 災害時備蓄品の維持管理・使用
- 7月4日台風対応（安否確認5名、緊急受入0名）
- 9月5日台風対応（安否確認5名、緊急受入1名）
- 9月16日台風対応（安否確認5名、緊急受入0名）
- 業務継続計画（BCP）自然災害編について作成、周知
- 災害発生時の監督官庁への被災状況報告
- 原子力防災訓練の継続的实施（佐賀県原子力防災訓練参加）
- 救命救急研修の開催（新型コロナウイルスの影響で事業所内研修を実施）
- 防火管理者研修の計画的派遣
- 防災管理委員への消火設備、消防法等の知識研修の開催
- 障害者支援施設瑠璃光苑職員へ非常用自家発電設備の使用法周知と確認
- 佐賀県 DCAT への法人職員参画
- 緊急避難時における新型コロナウイルス対策の検討

### ③ 苦情解決委員会

委員会では、定例委員会と併せテーマに合わせた臨時の委員会を行い、同じ内容の苦情が出ないように対策を講じた。今後も、内容検証及び対策を行い減少に繋げていく。

- 苦情受付8件（前年度22件）、意見・要望受付4件（前年度5件）
- 他委員会と横断的に連携し、人権擁護教育を実施
- 各部署での勉強会の開催（全スタッフ対象）
- 新しい苦情受付フォームの運用

### ④ 虐待防止委員会

- 委員会活動（3ヶ月に1度委員会を開催し、研修状況の確認、イエローシート、虐待に繋がる案件などを話し合った）

- 身体拘束適正化委員会（3ヶ月に1度開催し、身体拘束の状況や、廃止に向けた話し合いを行った）
- 人権研修（全職員を対象に4回に別けて開催 「心のバリアフリー」「ある女性の出産について」「さまざまな障害・シルコトカラ・見えない障害と生きる」「人生最期の食事で逆転できる」）
- 虐待防止セルフチェックリスト、声掛けマニュアルチェックリスト実施
- 虐待防止研修（外部研修に参加）
- 身体拘束にかかる記録物の確認を行った
- 「虐待ゼロの誓い」の冊子を使って人権擁護の意識の向上を図った

## ⑤ 安全運転管理委員会

事故発生時は都度ドライブレコーダー映像の確認を行い、事故の原因を究明し、再発防止の指導及び職員全体へ周知を行った。

- 公用車破損 7件
- 70歳以上の運転業務を行う生活支援員への運転技術確認と指導の徹底 →伊万里自動車学校「高齢ドライバー安全運転支援」の活用
- 飲酒運転ゼロ事業所の登録（飲酒運転撲滅の為の啓発活動）
- 冬タイヤやチェーンの準備啓発・装着の推進
- 地域の団体等へのマイクロバスや公用車の貸し出し（地域貢献事業）
- 送迎運転業務対象とした危険予知訓練（KYT）、送迎ルートの見直し

## ⑥ 設備管理委員会

計画的な設備備品の購入や在庫棚卸実施による在庫管理や、予算化など事業運営に活用できるよう法人全体の物品管理の仕組みづくりを行っている。また、委員会が中心となり展示会への派遣を企画した。

- 在庫棚卸と感染症用品倉庫の整理
- LINE WORKS の活用による法人内設備の補修や機器トラブルの迅速な対応
- 法人内パトロールを行い設備確認やメンテナンスについて委員と情報共有
- ハチやムカデの害虫対策を法人全体で実施
- 法人全体の仕入れ交渉など物価高騰対策として実施

## ⑦ 広報委員会

- 年4回（4・7・11・1月）るり色新聞定期発行
- 近隣地区への新聞回覧
- 法人内の取り組みを中心に障害者就労支援センターの商品紹介
- 法人リーフレットの見直し
- ホームページリニューアル
- 法人内事業所のレクリエーション・イベント等もブログにて情報発信
- 法人内ブログの表彰

- 社内向け広報紙【さちふる】の発行

## ⑧ クレド・マナー委員会

- クレド「信条・約束・志」の浸透  
朝礼や申し送りの際に唱和实施  
クレド内容の改定の検討
- 「福祉職としてのマナーアップ」に対する意識向上  
朝礼や申し送りの際に唱和实施、各部署の課題をマナーアップアンケートとして実施し振り返りまで行った。
- 素敵な人アンケート  
アンケートを LINE WORKS 活用することで集計。職員へのフィードバックでモチベーションアップ、良好な関係性の構築を意識し取り組みを行った。
- ありがとう券による職場の活性化  
2カ月毎（新型コロナウイルス感染症蔓延の時期は中止）の委員会定例時に各事業所のありがとう券の枚数と内容を確認した。部署内のみならず、他部署職員への提出を意識することで法人全体の良好な関係作りに繋がる取り組みとなっている。年々提出枚数の増加に繋がっており、運用状況・効果の検証も行っている。
- 委員会の班編成（担当割り）により、全職員が委員会活動に参加するよう意識向上に努めた。委員会活動において委員の責任も生まれ、いろんなアイデア発案に繋がっている。

## ⑨ 地域貢献活動委員会

- 地域交流相談スペース「だいこく SUN」活用促進ポスター、チラシの作成  
\*配布先： 法人各事業所、二里町コミュニティセンターなど
- IH クッキングヒーター、スピーカー・マイクセットの購入
- 伊万里市地域公益活動推進協議会研修会への参加

<地域交流相談スペース「だいこく SUN」等法人施設の利用状況>

### 法人内

- 利用者移動支援等での活用（随時）  
\*映画鑑賞、DVD 鑑賞、YouTube 等動画鑑賞、カラオケ
- ホームヘルパー事業所の調理実習 \*令和 4 年 11 月 16 日

### 法人外

- 佐賀県西部発達障害者支援センターSORA ペアレントプログラム講座
- 伊万里特別支援学校高等部職業コース授業にかかる学習、職業訓練（ピッキング）に係る学習
- 三幸福祉カレッジ各種講座： 介護福祉士実務者研修、他受験対策講座、模擬試験、直前対策講座、初任者研修等

## ⑩ 衛生委員会

産業医の指導のもと施設内を巡回し、以下の事項を確認した。月 1 回開催の衛生委員会で報告している。

- 作業環境並びに衛生状況
- 長時間労働者の報告・指導
- 業務配慮規程に基づくスタッフの健康状況の把握
- 公務災害並びに職場内での事故・事件の届出

また、職員の福利厚生としての助成金「黄色い靴の助成金」(健康診断 2 次検査費用の助成)、「子のインフルエンザ予防接種費用助成金」等の報告・管理も行っている。

職員健康診断は例年通り、5 月と 11 月(夜勤従事者、入所利用者)に実施した。課題であった 2 次検診率が昨年の 2 倍になった。今回は健診委託先のヤマナ会より受診の促し、並びに 2 次検診該当職員へ LINE WORKS で 2 次検診を受けるよう連絡を行ったことが受診率 UP に繋がった。

特記事項として公務災害が多発した。1 件に関しては 8 月に手術を行い、職員は未だ復職できていない。多くの労災に関して準備不足が挙げられる。軽装での作業、これくらい大丈夫だろうと自己判断の誤り等が挙げられる。一人で判断せずに数人で作業を行うよう指導した。また昨年 12 月に発生した新型コロナウイルス感染症のクラスターにより職員 35 名・利用者(入所・デイサポート・グループホーム・ヘルプ等) 49 名(逝去 2 名:入所利用者)が罹患し、終息まで 2 か月を要した。労働基準監督署へ新型コロナウイルス感染症罹患患者全員の私傷病報告書の提出を行った。

- 衛生委員会への報告内容

① 業務配慮 15 件    ②休職 1 件    ③公務災害(労災) 12 件    ④相談 1 件

- 黄色い靴の助成金(健康診断 2 次検査受診助成)

利用スタッフ 34 名    165,320 円

- 子のインフルエンザ予防接種費用助成金

利用スタッフ 13 名    41,300 円

- 兼業許可申請書(令和 5 年 3 月まで受理分)

利用スタッフ 2 名